



幼稚園から来た子ども

牧野友子

最近小学校入学前に、幼稚園を経験して行く子供が多くなっている。これらの子供達は小学校に入学する時、又は入学してから、他の、幼稚園を経験しなかった子供と比較して、どうであろうか。

私は、昨年と今年と、二年続けて新入学児を扱った経験から、この二者を比較してみようと思う。ここに述べる子供達の生活環境は、山の手郊外電車沿線、豊かな住宅地と、中小工業を営む地帯と、私営アパート住宅地もう一つ特殊な鮮人部落といわれる地区を含んでいる。幼稚園は、三園あり、又少し離れた所まで通っていた子供もいる幼稚園から来た子供の割合は、昨年の級の男子70%、女子46%、今年の級は男子50%、女子66%である。

両級とも生活環境又は、知的的に遅れているものがあるが、比較に際しては、これら特殊な児童は、除いた。

以下、幼稚園から来た子供が、ある場面で、どういふ反応をするかを見るため、入学時以後の実際場面を選んで記してみる。

一、新しい集団への適応状況

入学式から二、三日は、幼稚園から来た子供も、そうでない子供も、非常に緊張している。しかし中でも学校近辺の幼稚園から来た子供達は、友達と一緒に学校へ入学しているので、他の子供が、朝、家を出てから帰宅するまで緊張の連続であるのに比較すれば、その緊張の度合は、遙かに軽いと見てよいであろう。それは、入学式の時から、新しい友達にいたずらしかけたりする子供が、いるのを見ても、言える。私は子供達自身の気持を知ろうとして、一年生も中ば過ぎた十月中旬、食事をしながら子供達にたずねてみた。

「学校に初めてはいったとき、どんな気持ちでしたか?」これに対する答えは、幼稚園から来た子供も、そうでない子供も、殆んど同じように「嬉しかったけど心配だった。」とのこと。幼稚園から来た子供は「〇ちゃんを前から知っていたからよかったけど、やっぱり心配だった。」と言ひ、幼稚園に行かなかった子供でも「お友達がいなかったから、いやだけど、すぐ〇ちゃんと友達になったから平気だった。」と言う。

このように見ると教師や新しい友達に対して皆一様に不安を感じるのであるが、幼稚園

から来た子供が比較的早く適応できるように思われる。しかし、幼稚園から来た子供の中で内向性の子供は、なかなか適応できず、反対に幼稚園に行かなかった子供でも、外向的な子供は適応が早い。私の接したちょうど百名の子供を考えてみても一人ずつ個性が異なり、ちがった反応を示すので、一概に断言出来ないが、同じ程度の性質の子供を見れば、幼稚園から来た子どもの方が幾分適応が早いかも知れない。

いつまでも、友達と遊べない子供をみると家の中で大人の人に遊んでもらってばかりいた子供や家で一人で遊んでいた子供であることが多い。もしこの子供達が幼稚園へ行っていたら、これほど友達と遊ぶことが困難ではなかったらと思うのである。次に、実際の例をあげてみる。

例1 二年保育のM男 長男(二つ違いの妹)

遠い幼稚園に通っていたので、同級には友達がいらない。しかし入学式の日から、楽しそうにして、友達に話しかけ、教師にも、何か言おうとした。落付いていて、知っていることは発表し、級の誰とでも遊ぶ。

例2 二年保育N男 二つ上の兄がある。

一週間位、教師にも、友達にも、話そうとしない。首ふりで返答はする。友達のとこを見ていて真似をするが、非常に、消極的である。二週間程たって、やっと笑顔を見せ話が出来ようになった。

例3 家庭で育ったK子 三人姉妹の中

子 Aパートに住み、子供達が大勢いて、一日中遊んでいたとのこと。第一日は心配そうだったが、二日目から大へん張切って、話をよくした。友達とも、よく遊び、楽しそうであった。

例4 家の中ばかりで育ったT子。

七年以上年長の兄姉父母の間で常に大切にされて育った。幼稚園へ行かせるのもかわいそうで、行かせなかったとのこと。

家の中ばかりで遊んでいたので、子供同志の遊び方もわからず、学校へ来るのをいやがった。友達とは話もせず、教師に対しては、呼ばれたとき返事をするのが、やっとだった。この子供は、二ヶ月半、送り迎えをしてもらい、半年位、登校に附添ってもらいやっと独立した。知能は高く自立心も持っていたから

親の扱い方が普通であったら、これ程、苦勞をせずにすんだであろう。親達の扱い方が子供に与える影響について、考えねばならぬ所である。

以上の例の中、例1、例2と同様な女子もあるし、例3、例4の場合の男子も居るが、ここでは述べない。

二、学級内での反社会行動について

今までは、入学時の状況について見てきたのであるが、次にそれ以後の行動について二者の差をさがしてみよう。

幼稚園から来た子供はすでに、友達と一緒に、話を聞いたり、絵を書いたり、歌を歌った経験をもっている。家で育った子供は、そのような経験を殆んどもっていないのであるから、二者の間には、差があるであろうと考えられるが、実際はどうであろうか。

ここでは主として、集団としての行動というところを見てみる。

私の経験した二学級についてみると、第一の級において著しい反社会的行動をとった子供六名中、五名が幼稚園から来た子供であり、第二の級においては、四名中一名が、幼稚園

から来た子供であった。

それと反対に、望ましい集団行動をとる子供の方から見ると、第一の級において、一年間を通じて形成されてきたグループのリーダーは、全部幼稚園を経験していない子供達であり、第二の級において、半年間に形成されてきたグループのリーダーは、幼稚園から来た子供が多い。

このように見ると、私の経験してきた二学級は、一方は幼稚園から来た子どもがより望ましい集団行動をとり、他方は幼稚園を経験しない子供がそうであるという、両極端の二学級であったと言えるのであるが、これは一面、これら社会的行動が、幼稚園での経験の有無という単純な条件で決まるものでなく、もっと深い、種々の、個人的条件で決まることを示しているのかも知れない。その意味で次に、幼稚園から来た子供の、反社会的行動について、例をあげてみよう。

例1 二年保育H男 大人の中の一入子。

最初は、おとなしかったが、四日目頃から坐席を離れて歩きまわり、友達の勉強を邪魔したり時には、鉛筆などを持って行って返さなかったりした。何事にも注意集中時間が短

かくすぐあきる。興が乗ると人の事を考えずに自分のしたい事をする。この子供は、友達と比べて何でもよくできないことを自分で意識していたようである。

例2 一年保育Y男 男二人兄弟の次男。

落付きなく、理由もなく急に友達をいじめる事が多かった。休み時間が終わっても、教室に入ろうとせず、弱い友達をさそって、外で遊んでいる。母親に対しても、教師に対しても事毎に、反抗的態度をとっていた。

例3 二年保育K男 大ぜいの大人の中で育った。入学前、妹が、生まれた。

入学直後から、忘れものが多い。友達にいじめられたと訴えてきたことがあるが、自分も、主張が通らないといじめる。勉強にすぐあきて、他教室をのぞいたり、運動場の体操を見たりし、しばらくすると帰ってくる。作業が早く済んでしまうと、待ちきれないため歩き出すらしいので、難しい問題などを課すと、喜んでする。

例4 一年保育O子 三人姉妹の中子。

入学式の翌日から、教師に、しがみついて離れない。席にもどしても、又、休み時間外へ出てすぐ「男の子がいじめる。」と泣き

ついてくる。勉強も最初したがらなかったが優秀な男子とならばせたら、競走心が出て、勉強をするようになった。男女誰に対しても好悪が烈しく、それを口にする。母親が姉と妹に手をかけ、自分はまだあまり世話してもらえないので母親はきらいだと公言している。父親にかわいがられた子供だったが、その父が転勤のため留守にしているので非常に不安定であった。

三、創造的活動について

次に表現活動を主として創造性という事について考えてみよう。

幼稚園から来た子どもは、そうでない子供と比較して、より多くの経験をつんできていゝる。絵をかく、歌をうたう、リズムに合わせるなど、家にいる子供には、その機会は少ないであろう。その點で、幼稚園から来た子供は他の子供に比べ、これらの活動に樂に参加できる。もちろん、ここにも子供の個性は強く反映している。絵を例にあげてみる。幼児から絵を書き、能力をのばしてきた子供——ここには幼稚園から来た子供ばかりでなく、家で材料を与えられていた子供もいる。——は喜んでさっさと画きはじめる。まだ白紙のま

まの子供が五、六人残る。これらの子供の中には、幼稚園から来た子供も混じっている。

しかしこの子供は、そのうち何か書きはじめる。最後に残った、一人二人。これは、生まれてはじめてクレオンを持った子供である。

その顔からみて、喜んでゐるのだが、どうやって書いたらいいものか、わからない子供である。この子供の中にも、生来素質のある子供は、最初の二、三回でぐんぐん腕をあげて

普通の子供に追いついていく。しかし一年前からこの子が絵をかいていたらと思うことが多いのである。経験ということは、貴重なことである。しかし幼稚園から来た子供で自分が表現したいと思うのに技術が伴わない、という子供の場合他の子供と比較して自ら劣等意識を持ってしまっているということがあ

る。この場合の指導は考えねばならないのではないか。

工作等では、経験してきた子供は、簡単に暗示することによって創造性を發揮しやす

ある。リズムも同様である。とすれば、表現活動等は、生まれつきの素質が左右するのであるが、入学してから経験するものと、幼稚園で経験するものとを比較すれば、これらの能力が発達してきた時期に、経験させた方よりスムーズに発達させることができると言えるのではないだろうか。

★ ★

以上三つの場面で、幼稚園から来た子供について述べてきた。特に目立つ事を強調したので、書き落とされた要素もあるが、私の経験の範囲内での結論は、次の通りである。

幼稚園から来た子供は、生まれて初めて経験する身辺の激変である小学校入学の時期に幼稚園に行かなかつた子供達より楽に通過できる。しかしその程度は、各々の子供の個性により異なる。それでも特に内気な子供、遊び友達のない子供、表現意欲のないような子供は幼稚園を経て入学することによって、急に入学すると比べ、遙かにスムーズに仲間入りができることがわかる。このような子供達は是非幼稚園に入れて、入学時の烈しい変化から、守ってあげたいと思うのである。

原稿募集

本誌では昨年と一昨年の五月号に、「私の組の研究」「私の研究」と題して特集してきましたが、大

へん好評でしたので、今年も五月号に同じ特集をしたいと思ひます。現場での研究、何でも遠慮なくお送り下さい。

宛先 東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内
幼児の教育編集係

締切期日 昭和三十二年二月二十日